

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅		
所在地	〒804-0022 福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号		093-873-8731
自己評価作成日	平成27年06月01日	評価結果確定日	平成27年08月03日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たくさんある想いをひとつずつ形にしていくことが大切だと思っています。その瞬間の表情や仕草を見逃さないよう日々取り組んでいます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「金刀比羅」は自然が残る緑豊かな金毘羅池に隣接した、9階建てビルの2階～4階にある3ユニット(定員27名)のグループホームである。診療所を併設し、利用者の小さな変化も見逃さず、早期発見、治療に結びつき、利用者の健康管理は万全である。職員の6割以上が介護福祉士の資格を持ち、介護技術の高いベテラン職員が、利用者一人ひとりと向き合い、悩みや心配事を受け止め、常に利用者の視点に立って対応し、日に日に明るく、元気な笑顔を取り戻す利用者を、見守る家族からは驚きと、喜びに包まれ、管理者や職員との深い信頼関係が築かれている。また、長年の懸案事項の地域との関係も、運営推進会議を通じて地域の行事や活動に、利用者や職員が参加し、地域交流の輪が広がっている。今後は、隣接事業所と協働で、地域福祉の拠点として、社会貢献を目指している「グループホーム 金刀比羅」である。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		093-582-0294
訪問調査日	平成27年07月15日		

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各所に理念を掲示し、念頭に置きながら介護にあたっている。ミーティングやカンファレンスの際にも、理念に沿った介護や業務が実践できているかをその都度振り返りながら、職員間で意識を高めている。	「あなたがいてくれてよかった」という利用者の言葉をきっかけに、自分たちの介護の意味を振り返り、2年前に新たな理念、『ぬくもりを胸に。めぐり逢いはいつも傍にある。その瞬間を心に刻もう。』を作成し、ケアプランの見直しの時等、「原点はこれだよ」と、理念の振り返り、確認を行なっている。	3ユニットで職員数も多く、2階、3階、4階とユニットが分かれ、他のユニットが見えない事もあり、なかなか職員全員に理念が浸透するまでには至っていない。申し送りや会議等の機会に理念を唱和し、振り返る事で理念の共有を図る事が望まれる。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり地域ボランティアの方々をお招きする等、地域の方々との交流を図る機会を設けている。また、近隣への散歩や買い物に出掛け地域の方とふれ合いながら、社会との繋がりを感じて頂けるよう働きかけている。	運営推進会議を通じて地域との関係が深まり、地域の盆踊りや福祉祭りに参加したり、戸畑祇園の打ち込みの見学、近隣の小学校の合唱部との交流、ボランティアの受け入れ等、利用者が地域との繋がりを感しながら暮らし続けていけるよう支援している。今年度の地域の敬老会には、準備段階から参加する事を検討している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、参加頂いた地域の方々や、ご家族の方へ向けて認知症をご理解頂けるように、毎回テーマを決めお話をさせて頂く機会を設けている。また地域の行事に参加できるようアドバイスを頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や取り組みを発表し、参加頂いている地域の方々からの質問や意見について真摯に向き合い、お応えできるように努めサービスの向上を図っている。	会議は、地域代表、地域ボランティア、社協、包括職員参加で2ヶ月毎に開催し、ホームの活動報告、事故報告の他に、「認知症について」の勉強会を行う等、内容の充実に向けて工夫しながら取り組んでいる。運営推進会議の参加委員の協力を得て、地域との関係が築かれ、相互協力体制を整えている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加頂き、事業所の取り組みを理解頂きアドバイスを頂いている。	管理者は、行政担当窓口にて、ホームの現状、事故報告等を行い、情報交換し連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。月に1回、介護サービス相談員の受け入れを行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的に勉強会を行っている。日々の介護の中で実践しているケアが身体拘束にあたらないかを職員間で話し合っている。エレベーターを施錠している事については、ご家族の方に承諾をもらい、入居者の方の表情を見極め外出するように努めている。	「身体拘束はしない」を掲げ、身体拘束は行っていない。身体拘束委員会を中心に、定期的に勉強会で学ぶ機会を設けている。職員は、スピーチロックやドラッグロックも含めた拘束が、利用者には及ぼす影響を理解し、禁止行為の具体的な事例を検証し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、保安上の問題で、家族の了承を得てエレベーターをロックしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し定期的に勉強会を行っている。自身のケアを振り返ると共に他職員のケアについても職員間で意見を交わし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者の方もおられ、勉強会を開き理解を深めている。また権利擁護についても利用されている入居者の方がおられ月1回報告を行っている。	権利擁護に関する制度の利用者がいる事から、制度の重要性についての理解は出来ている。外部研修で権利擁護の制度について学んだ職員が、内部で報告を行い、資料を閲覧し知識を共有しながら制度の理解を深めている。利用者や家族が制度を必要とする時には、内容の説明を行い、申請機関へ橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時はもちろんの事、入居者の方やご家族の方が不安を抱えている際には、解りやすくご理解頂けるまで説明、話し合いを行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方やご家族の方からの意見、要望をお聞きできる環境づくりに努めている。また、意見箱の設置・介護サービス相談員の受け入れを月に1度行い職員へ直接言いづらい事であっても意見を言って頂ける環境も作っており、戴いた意見については向き合い、改善に努めている。	家族の面会や行事参加の時に、家族とコミュニケーションを取り、意見や要望の聴き取りに努め、ホーム運営やサービスの向上に活かしている。利用者と一緒に食事作りがしたいという家族の要望を実現した事で、家族のホームに対する信頼が深まり、協力者になって頂いた事例もあり、一つひとつの思いを繋げていく努力をしている。	今回、20家族からアンケートの回答があり、開設14年目で入居年数の長い利用者が多い中で、家族のホームに対する関心の高さが窺える。家族の意見を収集し、より反映していくために、家族が集まって交流出来る家族会の開催を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを開催し、意見や提案を開く機会を設けている。職員間で話し合ったうえで、反映し実践している。また定期的なヒヤリングを行っている。	毎月1回、フロア毎に職員ミーティングを開催している。限られた時間の中で充実した会議になるよう、事前に意見をまとめておく等、工夫して取り組んでいる。利用者一人ひとりのケアの方法について、気づきやアイデアを出し合っている。また、定期的に個人面談を行い、職員一人ひとりの思いを聴き取り、信頼関係を築く努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	得意な事が活かせるような環境が出来るよう努めている。法人からは永年勤続者へ報奨金の支給や資格手当等を支給するなど配慮している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	適宜ヒヤリングや個人面談を実施し本人の希望や能力が活かせるように配慮している。	職員の募集は年齢や性別の制限はなく、介護に対する考えや人柄を優先し、採用後は、新人研修やスキルアップ研修、資格取得への挑戦等、質の向上に向けて取り組んでいる。また、職員の休憩時間や希望休、勤務体制に配慮し、職員一人ひとりが生き生きと働ける職場環境を目指している。長年勤務している職員が非常に多く、職員は定着している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議や勉強会を通じて人権についての理解と知識が深められるように取り組んでいる。	新人研修や職員会議の中で、利用者の人権を尊重する介護の在り方について理解を深め、利用者これまでの生活環境や個性に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は、常に言葉かけや対応に注意し、利用者への尊厳を守る取組みを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促し知識の取得をサポートする。また得た知識については内部研修や勉強会の機会を設け、他職員への伝達、職員全体のレベルアップが図れるようにサポートしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の行事に参加させて頂いたり、他事業所への研修や見学の機会を設け、交流を図りながら、質の向上を目指している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く慣れて頂けるように、添いながら傾聴・声かけを行い安心して頂ける環境づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴・声かけを行いながら、不安を少しでも取り除けるように解りやすい言葉にて説明し、サービスをご理解頂けるように努めていく。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の方・御家族の方の気持ちを汲み取ると共にADL・IADLを把握し過介護にならない関わり方を実践していく。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向に添えるよう、できる限りの事はご自身でやって頂けるように働きかける。他入居者の方や職員と共に過ごして頂く時間、取り組んで頂ける事など入居者の方が無理をせず共有できるような環境づくりに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の過ごし方を報告しながら、御家族にもご協力・参加頂ける事があれば(外出・レクリエーション・受診など)参加頂き、御家族と共に過ごして頂ける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事がある際に、御家族にも参加して頂ける様呼びかけをさせて頂いています。贈り物等届いた際には、電話をかけ、贈り主の方や御家族と、お話しさせて頂いています。混乱等で対処が難しくなっている場合、スタッフが同行し御家族との外出を提案させて頂いています。	法人内の他事業所から入居の利用者が多いため、以前お世話になっていた馴染みの職員が、利用者に会いに訪れたり、友人が遊びに来たりの交流が継続している。また、利用者の家族や親戚等が面会される時は、ゆっくり話ができるように場所やお茶を提供し、また来て頂くように声掛けしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々々の状況を見極め、スタッフが間に入る事でスムーズに会話が進む様に努めています。(難聴・気分・理解力の差による会話の続かなさ、等)		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも御家族の相談を受けたり面会に行く等している。関連法人の紹介も行っています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	習慣にされている事は出来る限り継続して頂き、意思表示が困難な方でも、思いを汲み取れる様スタッフ間で情報交換し、良い介助方法を適宜検討しています。	今年度のテーマは、「思いを形にする」である。利用者がふと漏らした言葉を拾い、困難な場合は、その方が楽しいと思う事を想像し、職員間で話し合い、一人ひとりの思いの実践に取り組んでいる。ベテランの職員が多く、利用者の表情を見極め、家族と密に話し合い、ちょっとした表情や行動から本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、習慣や服薬方法等、介助させて頂く大切な事をフロアスタッフ全員が把握出来る様、情報の共有を図り、実践しています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを把握し、普段の変化に気付く様にしています。一緒に食事を摂る事で、食事の提供形態の見極め等させて頂いています。それぞれの出来る事、得意不得意等、把握できる様心がけています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	楽しみとされている事や重視していきたい習慣や声かけの仕方、充実した日々のための介助の方法等、フロアスタッフ全員から意見を集め、ケアプランを作成し、実践しています。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者会議や、モニタリングの中で職員間で検討し、利用者ごとの実施状況や目標達成状況を確認し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を基本的には6ヶ月毎に作成している。また、利用者のレベルが変われば、その都度、計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時、フロアに出る前にそれぞれのケース記録に目を通し、勤務中以外の入居者の方の様子を把握している。状態に変化が出た時等は、その都度話し合いを設け周知を行い入居者の方の状態に沿ったケアができるように努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と共に外出頂く以外にも、奥様が近隣の施設に入居されている入居者様には、施設と連携を取り、こちらから伺う等、ニーズに応えられる様支援しています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園に散歩へ行く、地域のボランティア(小学校の合唱部やフラダンスのサークル等)の方々と交流の機会を設けている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣設した診療所への定期受診等で常時、現状把握し、必要に応じて、同法人の総合病院の受診を行っている。また、入居される前より通われていた、かかりつけの病院への受診を希望される際は、御家族の協力を得ながら、受診頂けるように支援している。	殆どの利用者が、隣の系列診療所を主治医とし、定期受診している。夜間、緊急時は、同法人の総合病院の病棟に直接電話で問い合わせる事が可能であり、安心の医療体制が整っている。また、入居以前からのかかりつけ医受診の希望があれば、医療情報の提供、共有に努め、家族の協力の下、受診できるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で変化がみられた時、隣設する診療所の看護師、主治医への報告・相談を行い、迅速な対応に努めている。必要であれば緊急受診も行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院されたときに適切な介助が出来る様、看護師や、相談員と密に連絡をとりながら、状態の把握に努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の方に説明は行いが、重度化がみられた際にその後の方針について、再度話し合いを行っている。他医療機関や施設とも連携を図り、対象の入居者の方が安全に穏やかに過ごせる場所、方法をご案内できるよう支援している。	「終末期、行き先はどこがあるのだろう」といった家族の不安を聴き取り、重度化した場合における対応に係る指針を基に、予測出来る可能性を説明し、選択肢の一つとして、次の場所を一緒に探しませんかという話をしている。近隣の施設を見学し、知識を得て紹介出来るよう準備している。また、家族の思いを見極めながら、看取りに向けての環境整備に取り組み始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を定期的に行い、緊急時に備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害マニュアルを作成し、定期的に事業所内での勉強会を行い、避難訓練も適時行っている。また、消防署の方等のご協力も頂いている。	防災訓練を年2回実施し、1回は消防団や地域住民参加で近隣同法人施設と合同で開催し、1回はグループホームのみで行っている。6月に夜間想定での訓練を実施し、2階、3階、4階の利用者を速やかに一時避難場所に誘導する方法を確認している。また、非常災害時における非常食については、食事の委託業者による供給体制が整っている。	ホームが、2、3、4階に位置し、3ユニットで入居者数も多いため、避難誘導や避難場所での待機時の混乱が予想されるため、併設施設や近隣系列施設、消防団、地域住民との協力体制を改めて確認し、非常時に職員が落ち着いて行動できるよう繰り返し訓練を重ねる事が望まれる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーについての勉強会を行っており、そこで学んだ事を基本に、入居者の方を尊重し、声かけ、対応に気を付けている。職員間でも他職員の声かけや対応を把握しあいながら、入居者の方の尊厳を守れるよう、努めている。	ホーム内の勉強会で、利用者の尊厳を守る介護の在り方を話し合い、利用者を尊重した声掛けや対応を心掛けている。また、「想いを形にする」を今年度のテーマとして、利用者一人ひとりが「楽しい」と思う事を考え、実践に向けて取り組んでいる。個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、常日頃説明し、周知を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、信頼関係を築きながら、ご本人さんが気を使わず意見を言い、思う事を我慢されずに過ぎて頂ける様心掛けている。飲み物メニューをボードに書き出し、選んで頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人さんの生活リズム、そればかりにとらわれず、ご本人様の体調等見極めながら支援させて頂いている。その日の表情を見極め買い物や何かやりたい事があれば出来る限り添えるように支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等、楽しんでご自分でなさっている方もいらっしゃいます。定期的に理美容の訪問があり、カット、パーマやひげそり等楽しまれています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や他入居者の方と一緒に食事準備(盛り付け・お茶入れ)等手伝い、出来る事を楽しんで頂いている入居者の方もいる。また、時折、入居者の方へリクエストを募りお好きなメニューを入居者の方と共に調理し、食事を楽しんで頂けるように働きかけている。	法人厨房で作られた料理を、各ユニットで盛り付けし提供している。利用者と一緒に出来る事を行う等、関わってもらう場面を作り、利用者の食べたい物を聞いて一緒に作ったり、外出に出かける等、食事を楽しむ事の出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取は、管理栄養士の指導の下バランスの取れた食事を摂取している。毎日一人ひとりの水分量をチェックし記録している。一人ひとりの好みや量を考え提供している。また、体重の増減がみられた際には、食事摂取量を見直し、個別対応を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に出来る事をして頂き、それ以外は、介助を行い口腔内の清潔保持を行っている。義歯は職員が消毒を行っている。週1回口腔ケア用品の消毒を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンの状況を把握している。一人ひとりのADLに応じて自立を促しながら誘導や介助を行っている。	立位の難しい方は、ベッド上でオムツ対応であるが、他の利用者は、排泄チェック表から、利用者一人ひとりのパターンを把握し、それぞれに合った声掛けや誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、かゆみなどがあれば、速やかにパットの種類を検討したり、オムツの当て方についても職員間で教え合い、工夫を重ねて支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量を把握し排便を促す飲料を提供している。毎日体操に参加していただき運動を促している。それでも排便が困難な場合は、医療との連携を図りながら、下剤の調整を行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人の希望に添うように、その方の状態に応じた介助方法を行いながらしているが、日時はある程度決まっている。声かけや雰囲気づくりにて、ゆったりと入浴を楽しんで頂けるように働きかけている。	職員は、出来るだけ利用者の希望に応じた入浴支援に取り組み、最低でも3日に1回は入れるように取り組んでいる。車椅子の方については、その日の各ユニットのスタッフが朝のミーティングで話し合い、1台のシャワーチェアを融通しながら、シャワー浴を実施している。入浴拒否の方には、無理強いせず別の日に入ってもらっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて支援をしている。必要に応じて声かけにて臥床時間を設けている。就寝時間は、個々に合わせて雰囲気作りを行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や薬表はスタッフルームにて保管し内容の把握を行っている。又、症状に変化がある場合は、主治医に報告、相談し指示を仰ぎ、状態に応じた服薬の支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の生活歴を把握できるように、ご家族の方やご本人より聞きとりを行い、フェイスシート等を作成し、職員間で情報を共有している。また日々の生活の中からも入居者の方が楽しんでいる様子や喜ばれている様子を職員間で申し送りしながら活気ある生活を送って頂けるよう個々に沿った支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	出来る限り、個々の行きたい場所やなじみの場所へ外出して頂けるよう努めている。ご家族の方にも協力して頂きながら一緒に外出できるよう支援している。	桜や紅葉の美しい金比羅池に隣接し、天気の良い日は散歩に出かけ、四季折々の季節の変化を五感で感じてもらっている。また、地域の盆踊りや、戸畑祇園山笠の見物、個別の買い物等にも出かけている。飲み終わった牛乳パックを洗ってスーパーのリサイクル箱に入れに行く等、外出のきっかけ作りにも取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて個人のお金をお預かりし、ご本人と一緒に買い物に行った際ご自身にてお支払をして頂けるよう支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方や大切な方へ電話をかけたり、お手紙をお出しできるような支援を行い、なじみの関係が継続できるよう、働きかけている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全快適な生活の場となるような環境づくりに努めている。なじみの物や好みの物を居室に置き、使用頂けるようにしたり、季節を感じて頂けるような装飾を行うなど温もりを感じられる生活スペースづくりを目指している。	建物の2、3、4階にある3ユニットのホームは、窓から金比羅池周辺を歩いている人の姿が見られ、明るく開放的な雰囲気である。室内には、花の好きな利用者が散歩の時に摘んできた野の花が生けられ、皆で書いた絵を飾る等明るく温かみのある共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのレイアウトを考慮しながら、気のあう方々と一緒に過ごして頂ける環境づくりに努めている。また、独りでもお過ごし頂けるよう、居室で過ごされる時間も尊重している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使っておられた愛用品やなじみのものを居室に配置し居心地の良い環境づくりに努めている。	利用者の馴染みの家具や好みの物を、出来るだけ持ち込んでもらい、自宅と違和感のない、その人らしい居室となるよう支援している。居室の掃除は、利用者と一緒に出来るだけ毎日行うようにして、利用者が気持ちよく過ごせる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行、移乗のしやすい十分なスペースづくり、手すりを配置し、歩行、移乗が安全にでき、できる限り自力にて、行えるような環境づくっている。必要に応じた、声かけ、見守り、介助を行い自立支援を目指している。		